

# (仮称) 那珂川市文化芸術推進計画の全体構成 (第2章～第4章)

## 第2章 那珂川市の文化芸術振興の現状

### 1. 社会潮流

#### (1) 国の動向

- ・「文化芸術基本法」が平成29年に改正され、「第一次文化芸術推進基本計画」が平成30年、「第二次文化芸術推進基本計画」が令和5年3月に策定された。
- ・「文化芸術の本質的価値」と「文化芸術の社会的・経済的価値」が記載され、前者では①国民誰もが文化芸術の鑑賞・参加・創造の機会を享受できること、また②青少年に対する文化芸術教育の注力、後者では観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策との有機的な連携を求めている。(課題2)
- ・これに伴い、「改正・文化財保護法」や「文化観光推進法」、「障害者文化芸術推進法」等の法整備が行われ、また「アートと経済社会について考える研究会」での検討等が進められている。(課題2)
- ・一方、教職員の働き方改革等の観点から、文化部活動の地域移行が検討され、公立中学校の休日の文化部活動について、3年後の2025年度末までに移行する提言が出されている。(課題2)

#### (2) 県の動向

- ・令和2年に「福岡県文化芸術振興条例」が制定され、令和3年に「福岡県文化芸術振興基本計画」が策定された。4つの柱として「文化芸術の振興」、「文化芸術に親しむことができる環境づくり」、「障がいのある人の文化芸術活動の推進」、「文化芸術を活用した地域づくりと魅力の発信」で構成され、世界文化遺産の保存・活用に関する取組み、障がいのある人の文化芸術活動の推進に関する取組み、「文化観光推進法」に関する取組みを記載していることが特徴。(課題1)

#### (3) 那珂川市の上位計画・関連計画等

- ・「那珂川市総合計画」では、将来像「笑顔で暮らせる自然都市なかがわ～これからも住み続けたい協働のまちを目指して～」の実現に取り組むこととしており、文化芸術については「郷土の歴史や文化に触れる機会を充実させ、ふるさとに対する愛着や誇りを育むこと」としている。(課題1)
- ・市内にはミリカローデン那珂川(800席ホールと生涯学習施設、図書館等の複合施設)があり、現在リニューアル中。また4つの市立公民館、那珂川北中学校特別教室やナカイチ、自治公民館等がある。(課題3)
- ・裂田溝や安徳大塚古墳・安徳台遺跡、岩戸神楽等、多数の文化財があり、また市民文化祭や南畑美術散歩等の取組が実施されている。(課題1)

### 2. 市民意識調査(アンケート)

#### (1) 18歳以上市民(配布3,000件、回収798件、回収率26.6%)

- ・過去1年間に文化芸術の実践活動がある市民は約15%、直接鑑賞した市民は約51%であり、国(令和3年度文化に関する世論調査)と比べると(活動:約10%、鑑賞:約40%)多い。(課題1)
- ・活動内容では美術、音楽、生活文化が多く、活動場所は那珂川市内が約68%(内訳はミリカローデンが約53%)。鑑賞内容ではメディア芸術が約45%で多く、自宅鑑賞では音楽とメディア芸術が多い。鑑賞場所は福岡市が約61%で那珂川市内は約42%(内訳はミリカローデンが約95%)、友人・知人からの誘いが約26%で多い。(課題1・2・3・4)
- ・活動しない理由は「仕事やその他の活動で時間がとれない」が約50%、鑑賞しない理由は「仕事やその他の活動で時間がとれない」と「コロナ禍で人混みを避けるため施設に行くことを諦めた」がそれぞれ約40%。(課題1・3)
- ・文化芸術環境(活動・鑑賞)への満足度について、全体的に「ふつう」が多いものの、不満が満足より多く、特に交通利便性は不満・やや不満の合計が活動:約31%、鑑賞:約32%。(課題3)
- ・文化芸術のボランティア活動をしていない市民が約69%(不明・無回答を加えると約95%)。(課題2)
- ・文化芸術施策を通じて、「市民が文化芸術を鑑賞する機会や活動に参加・体験する機会が身近にあるまち」や「文化芸術とふれあう機会を通じて豊かな感性を持った子どもが育つまち」を期待する回答が多い。(課題1・2)
- ・文化財については、「文化財の活用(歴史的建築物、史跡、地域に伝わる祭りや行事など)」を求める市民が約39%いるが、「文化財や文化資源、市民活動を目当てに観光客が来訪するまち」を期待する市民は約21%と少ない。(課題1)
- ・ミリカローデンについては、「市民が文化芸術に触れる(鑑賞など)ことができる機会が充実した場所」を期待する市民が約70%で多い。また、「学校教育」との連携を期待する市民が約47%。(課題2・3)
- ・市民文化祭の認知度は約63%と多いが、参加・鑑賞したことがない市民が約53%と過半数を超えている。(課題2)
- ・0～10点の11段階で市民のウェルビーイング状態を評価したところ、現在の幸福度は平均点6.98、現在の健康状態は平均点6.60、現在の社会的つながりは平均点5.89となっている。(課題1)

※その他、子ども向け、ミリカローデン来館者向けの調査を実施

### 3. 文化芸術団体調査(ヒアリング)

#### (1) 文化芸術団体(11団体)

- ・市内の文化芸術活動は盛ん・充実している、頑張っているという意見がある一方、改善していく余地があるという意見もある。(課題1)
- ・文化芸術を鑑賞する機会は、大半が少ないと意見している。(課題1)
- ・自団体活動上の課題として、高齢化と会員の確保が挙げられている。また、場所の確保やコロナ禍での感染防止に係る意見もある。(課題2・3)
- ・他団体との交流機会について、各種イベントや市民文化祭等で交流している団体がある一方、交流がない団体もある。(課題2)
- ・文化芸術政策への期待としては、歴史を活かすこと、情報発信・PRに関すること、子どもや障がい者に関すること、文化資源を観光に活かすこと、後継者育成に関することが挙げられている。(課題1・2・4)

#### (2) 中間支援団体(4団体)

- ・市内の文化芸術活動は、ミリカローデンだけでなく中央公民館や地区公民館でも取り組まれていること、子ども向けのジュニアダンスが増加していることへの意見がある。(課題1・3)
- ・文化芸術を鑑賞する機会は少ないという意見が多く、ミリカローデン以外での鑑賞機会が少ないことを指摘する意見もある。また、歴史資料館が市内にないことに関する意見もある。(課題1・3)
- ・自団体活動上の課題として、南畑美術散歩については当初の目的をある程度達成し、次の目標が課題になっている。ミリカローデンについては、職員数の確保・増加や職員の専門性の向上が課題となっている。また、コロナ禍で事業が中止になり、コミュニケーションの機会が減少したとの意見もある。(課題2)
- ・文化芸術活動を地域活性化などに生かしていくための取組について、文化芸術を媒体に交流する機会を増やしていくことや、ミリカローデンでの那珂川らしさの追求が挙げられている。(課題1)
- ・文化芸術政策への期待としては、プロを含めた文化芸術団体・作家との交流や文化芸術団体間の交流や、文化芸術活動への資金面での支援が挙げられている。(課題2)

#### (3) 文化芸術以外の団体(3団体)

- ・市内の文化芸術活動は、南畑美術散歩や市民文化祭は知られているが、敷居が高い、分からないという意見もある。(課題2)
- ・他団体との交流については、文化芸術団体と交流している団体がある一方、接点がないという団体もある。(課題2)
- ・文化芸術政策に期待することとして、子どもの頃からの文化芸術に触れる機会の確保や、発表の場の確保、市民力の向上が挙げられた。(課題1)

【課題】

1. 文化芸術の「内容」に関する課題

① 実践・鑑賞機会への満足度の低さ

- ・アンケートやヒアリングの結果から、どの世代も既存の実践・鑑賞に対する機会への満足度が低いことがうかがえます。
- ・文化施設への交通アクセスの不便さも、アンケートの結果として表れました。駐車場が屋外であることや公共交通機関の便数の少なさなど様々な理由が考えられます

② 市民の関心の低さと文化芸術と他分野との繋がり希薄さ

- ・アンケート結果から、文化芸術に対する興味の低さがうかがえます。
- ・文化芸術との結びつきが強くなるとよい分野について、「学校教育」、「高齢者・障がい者福祉」、「生涯学習」の順で回答割合が高い結果となりましたが、それ以外の分野ともつながりを望む市民がある一定割合で存在しています。
- ・アンケートにおいて、大切に思い自慢できる文化芸術について、岩戸神楽や裂田溝など、地域に昔からある民俗芸能や史跡等が上位に並びました。

2. 文化芸術を支える「人・組織」に関する課題

① 人材（職員・団体）育成の必要性

- ・ヒアリングから、会員の減少や高齢化の課題が見えてきました。また、支援者側の人材確保や専門性向上も課題であることが分かりました。
- ・今後ボランティアの育成やボランティアの活躍の場の提供をどのように実現していくかが課題となっています。

② 連携体制の未整備

- ・文化芸術と他分野との連携は、文化関連団体だけでは実現できません。しかしながら、部署や団体等を超えての連携体制が整っていないのが現状です。行政内外を視野に入れた様々な分野との連携体制整備が、今後の施策推進にあたっての課題であると考えます。

3. 文化芸術を実践・鑑賞する「環境」に関する課題

① 文化施設等の実践・鑑賞する場と市民ニーズとの乖離

- ・実践・鑑賞する文化施設の箇所数について、普通以下の回答が多いことから、満足度の低さがうかがえます。また、文化施設までの交通アクセスの満足度も低い結果となっています。文化団体等のヒアリングからも、ニーズに対しての施設（部屋）の規模、利用料金、予約の流れ等様々な課題が見えてきました。

4. 文化芸術を知る「情報」に関する課題

① 「文化芸術」への興味を促す仕組みの未整備

- ・実践・鑑賞に関する情報提供の手段に対する満足度について、「普通」以下の回答が多いことから、満足度の低さがうかがえます。また、情報入手の手段も多種多様になってきていることや、いかに市民の記憶に残るかどうか、という視点は、今後情報を発信していく上での課題となると考えます。

【基本理念】

文化芸術は、実践や鑑賞を通じて、人々に楽しみや喜び、生きがいを与え、心を豊かにするとともに、市民一人ひとりの活力を生み出します。また、文化芸術を通じて多様な文化や価値観を尊重し合い、相互理解を深めます。また、つながりが生まれるきっかけをつくり出します。市民が元気になり、他者を理解し、社会につながりが生まれ、まちが豊かになる。そんなまちの中心に文化芸術があるものと考えます。また、そのような意識づくりや環境づくりを市、ミリカローデン那珂川、文化協会を中心に、市民、文化団体等と連携・協働して進めていきたいと考えています。

「（仮）文化芸術でまちに豊かさを みんなで創る新たな可能性」

基本方針	主な施策・事業	重点施策
1. 機会の充実	(1) 文化芸術活動（実践・鑑賞）の充実	子どもたちが主体的に文化芸術に親しむための環境を整える 文化芸術を通じて「社会包摂」の視点を学ぶ 誰もが文化芸術に親しめる土台となる環境を持続する
	(2) アウトリーチ活動の実施	
	(3) 市民の活動実践の場への鑑賞者を増やすための取り組み	
2. 文化芸術の多様な価値の活用	(1) 自慢できる文化資源の活用	
	(2) 社会包摂を意識した文化イベントの運営	
3. 人材（職員・団体）育成	(1) 実践者組織の育成	
	(2) 支援者の育成	
4. 官民連携の推進	(1) 関係部署との連携	
	(2) 学校・企業等との連携	
	(3) 組織の育成	
5. 施設（環境）整備	(1) 施設ハード面での整備	
	(2) 施設ソフト面での整備	
6. 広報・情報の集約と発信	(1) 広報・情報収集の充実	
	(2) 学校と連携した広報の実施	

【推進に向けて】

1. 那珂川市の文化芸術の推進体制の強化

① 各主体の役割

- ・市やミリカローデン那珂川の指定管理者が中心に市民や文化団体・芸術家、団体・事業者等、多様な主体が一体となって推進しなければなりません。また、それぞれの役割を果たすことが大切です。

② 文化団体や活動等をつなぐプラットフォームの形成

- ・市やミリカローデン那珂川が個別に取り組むだけでは十分に推進することができません。そこで、文化団体や大学、企業等が協力・連携して「プラットフォーム」を形成し、文化芸術の推進に向けて中間支援機能を確保・育成していくことが大切です。

③ 文化芸術振興のための財源の確保

- ・全国的に人口減少、少子高齢化が進む中で、文化芸術振興に取り組むためには、多様な資金調達に取り組むことが大切です。文化芸術振興に掛かる予算を確保するとともに、国等の競争的資金獲得や、クラウドファンディング・（企業版）ふるさと納税等による多様な資金調達の手法も検討しながら、財源の確保に取り組みます。

2. ミリカローデン那珂川の役割

① リニューアルの経緯

- ・開館から約30年が経過し、老朽化が進んでいることから、リニューアル工事が行われています。これまで以上に市民が使いやすく、また滞在しやすい施設を目指しています。

② 新たに求められる役割

- ・これまでの機会の提供だけでなく、ミリカローデン那珂川以外の公共施設や民間企業等をつなぎ、また文化以外の団体とをつなぎながら、多様な企画が行われていくことが期待されます。
- ・子どもや若者、高齢者なども、ミリカローデン那珂川に目的がなくてもふらっと立ち寄り、第三の居場所として滞在できる空間づくりを目指しており、そのような施設運営も期待されます。
- ・こうした新たな役割を担うためには、市民や文化団体と、他分野の団体とをつなぎ、また多様な施設をつなぐ等、企画・コーディネートに取り組むことが大切です。

## 第5章 主な施策・事業

<p>1. 機会の充実</p>	<p>(1) 文化芸術活動（実践・鑑賞）の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 世代や市民ニーズを意識した講座・サークル・イベント等の充実</li> <li>2) 幼稚園・保育所（園）・学校における文化芸術活動の充実</li> </ol>	<p>(2) アウトリーチ活動の実施</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 公共施設等でのアウトリーチ活動の実施</li> </ol>	<p>(3) 市民の活動実践の場への鑑賞者を増やすための取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 市民文化祭など文化芸術の発表を行う実践内容の工夫等</li> <li>2) 中学生・高校生向けのイベントの実施</li> </ol>
<p>2. 文化芸術の新たな価値の活用</p>	<p>(1) 自慢できる文化資源の活用</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 文化財に係る情報の発信</li> <li>2) 文化財等を活用したイベント等の実施</li> </ol>	<p>(2) 社会包摂を意識した文化イベントの運営</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 社会包摂を意識した文化イベントの企画・実施</li> </ol>	
<p>3. 人材（職員・団体）育成</p>	<p>(1) 実践者組織の育成</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 文化団体への新規加入の支援</li> <li>2) 文化団体のプロモーションの実施</li> <li>3) 文化協会への加入支援</li> </ol>	<p>(2) 支援者の育成</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ミリカローデン那珂川指定管理者の資質・専門性向上</li> <li>2) 文化協会の組織強化</li> <li>3) ボランティアの育成と活躍の場の確保</li> </ol>	
<p>4. 官民連携の推進</p>	<p>(1) 関係部署との連携</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 関係部署との連携強化</li> <li>2) 公共施設の連携強化</li> </ol>	<p>(2) 学校・企業等との連携</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学校との連携強化</li> <li>2) 文化部活動の地域移行の実施</li> <li>3) 学術機関や民間企業等との連携した活動の実施</li> <li>4) 他自治体との連携強化</li> </ol>	<p>(3) 組織の育成</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 市民や文化団体の交流・連携の土台となるプラットフォームの構築</li> <li>2) 他団体との交流</li> </ol>
<p>5. 施設（環境）整備</p>	<p>(1) 施設ハード面での整備</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 市民ニーズの把握と設備の工夫・見直し</li> <li>2) バリアフリー化の対応</li> </ol>	<p>(2) 施設ソフト面での整備</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 施設利用のあり方の検討</li> <li>2) 多様な施設利用の視点からのサービス実施</li> <li>3) ミリカローデン那珂川や市立公民館以外での実践環境の充実</li> </ol>	
<p>6. 広報・情報の集約と発信</p>	<p>(1) 広報・情報収集の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 多様な情報媒体による広報の実施</li> <li>2) 効率的な情報の収集</li> <li>3) 広報物における配慮の実施</li> </ol>	<p>(2) 学校と連携した広報の実施</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) タブレット端末を通じた情報の発信</li> <li>2) 文化芸術に関する子どもの意見の聴取</li> </ol>	